

第2回 大阪ミモザカフェ：これまでのJSAの女性会員の活動、女性の問題とは？

9月25日に第2回大阪ミモザカフェを行いました。お昼どきのオンライン（Zoom）開催で、今回も私含め3人でお話ししました。京都支部と女性委員会（岡山支部）よりご参加いただき、京都支部のご様子を伺いました。『日本の科学者』の読書会を定期的にかかれていたとのこと。また、JSA創設のころからメンバーで、かつては地域の女性研究者の会（京都、愛知、北海道、東京など）あり、シンポジウム開催で会員外の人も多く集めていた頃のお話も伺いました。最近の女性委員会の開催するシンポジウムはオンライン開催で、参加者もJSAの会員が中心になっています。かつては女性研究者の数が少なく、そうした会やネットワークによく人が集ったものの、今は女性研究者の数も増えてきたため、あまり必要ではなくなったのかも、とのことでした。とはいえ、女性研究者の割合はまだ18.3%で（「科学技術研究調査」2023）、なにかできることはありそうなのですが。オンライン上ででも、直接お話しすることで、少し距離が近く感じられるようになればと思います。

女性委員会では、総学の分科会とシンポジウム開催を隔年ごとに交互に行っており、委員会活動としては、現在、上位職・管理職経験のある女性研究者・技術者調査に取り組んでいます。そうしたお話から、管理職経験や組合での経験のお話になりました（主催者は管理職経験も組合活動経験ありませんので興味津々）。管理職でも下位は権限が持てない「雑用係」だとか、組合婦人部での要求は、かつては産休、育休、代替教員などの必要性ははっきりしていたが、大学を移ると女性教員の要求がよく分からなくなったとのことでした。今なら“女性教員の数を増やすこと”を組合の要求にできるのでしょうか？ 職場の実態として、女性の問題が何か、全体の問題が何かということをつかみにくく、何をどういう条件にしないといけないのか、がわかりづらくなっているのではないか、ということです。

さて、次回の大阪ミモザカフェはお昼に予定しています。お気軽にご参加ください。なお、参加してみたいけれど日中は参加しにくいとのご意見もいただきました。いずれ夜の開催も企画したいと思います。